

# そよかぜ

題字 小野倉藏

なかへ学院  
中部少年学院後援会

〒750-0081  
山口県下関市彦島角倉町  
3丁目6番17号

TEL (083) 266-1934

発行 広報部

印刷

(株) ナカハラプリンテックス  
TEL (083) 266-4601

## 創立70周年記念号



子どもたちの未来を育む  
理事長 石川 啓

昭和二十二年、下関駅周辺を浮浪する孤児を自宅に連れ帰り、共に生活することを始めた小野倉藏夫婦は、養育の理念をこう語っています。

「子ども達に先ず食と住を、そして人としての幸せを育む。」  
「社会に役立つ人として、成長する子ども達の可能性を育む。」  
爾来七十年。

昭和二十六年、社会福祉事業法が施行されると、中部少年学院は社会福祉法人となり、児童福祉法に基づく保護、養育の活動をできるようになります。児童養護施設、乳児院、こども家庭支援センター、障害児通所支援、さらには行政から委託を受けた養育支援訪問事業等、一貫して社会的養育に努め、折々の社会的課題に応えてまいりました。

平成二十八年、「児童福祉法等の一部を改正する法律」が公布されました。「生きる・育つ・守られる・参加する」という子どもの権利条約の精神を基本理念とする改正でした。児童虐待への対応強化や親元では暮せない子どもの家庭的環境での養育の推進などが明記されています。社会的養育の在り方もより家庭的なものへと移り、従来の施設における養育の在り方も大きく問い直されようとしています。

大きな変革の時を迎えようとしています。中部少年学院では、「子ども達の現在の生活を守る営み」と「子ども達の未来への向上を目指す営み」を大切にしていきたいと思っています。

子どもは社会の宝であり、その未来は光り輝くものでなければなりません。中部少年学院は、これからも子どもたちの未来のために、二丸となって弛まぬ努力を続けていきます。

## 祝辞

内閣総理大臣 安倍晋三



輝かしい創立70周年を迎えられた社会福祉法人中部少年学院に心から祝意を申し上げます。

ご高承のとおり、中部少年学院は小野倉蔵先生ご夫妻が戦後の混乱期の中、戦災孤児や引揚げ孤児の保護養育のために設立され、昭和27年の社会福祉事業法の施行をもって本格的な養護活動を開始され、貫して児童の保護養育に努められ、多くの優秀な人材を社会に送り出されておられますことはご同慶の至りでございます。

平成24年には、なかべ学院新院舎を竣工されて、現在は、児童養護施設、乳児院、児童家庭支援センターなどを運営されるほか、下関市子育て支援事業に関連する各種活動を行って社会福祉の増進に多大な貢献をされておられます。歴代の理事長様、院長様、関係の皆様の方々なら

ぬご苦労、ご尽力に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

子どもは国の宝であり、近時、子どもたちを取り巻く環境も複雑多様化した中、児童養護施設等の社会的養護事業の果たす役割は極めて重要であり、貴学院におかれては今後とも、児童福祉一筋にその生涯を捧げられた創始者・小野先生のスピリットを継承され、入所児童の皆さんの幸せはもとより、今後の児童福祉向上のため、さらなるご尽力、ご活躍をされますことを祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



## 中部少年学院創立70周年を祝して

山口県知事 村岡嗣政



中部少年学院が創立70周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

貴学院は、終戦直後の孤児達の悲惨な光景を目のあたりにされた故小野倉蔵理事長が、児童の救済に深く思いを抱かれ、戦後の混乱が続く昭和21年8月に設立されました。

その後、乳児院の設立による乳児から高校生までの一貫した養護や、児童家庭支援センターの開設による地域の子ども・家庭の支援、さらには安全委員会の設置による入所児童の安心な生活環境づくりなど、児童福祉の向上に多くの成果を挙げてこられているところです。

このことは、ひとえに石川理事長はじめ歴代の役員、職員の方々の並々ならぬ御労苦と御努力の賜であり、心から敬意と謝意を表する次第であります。

さて、本格的な人口減少社会を迎える中、私は、「活力みなぎる山口県」の実現をめざし、子育てしやすい環境づくりを推進するとともに、生まれてきたすべての子どもたちが健やかに育つ地域社会を実現するため、社会的養護の充実など、子どもを守る取組を進めているところです。

特に、社会的養護の充実については、子どもたちができる限り家庭に近い環境で養育されるよう、児童養護施設等の小規模化と併せて、里親委託を推進しているところです。こうした中、里親を支援する機関として、児童養護施設の役割もますます重要となっております。

中部少年学院におかれましては、創立70周年を契機として、これまで積み重ねてこられた数々の実績をもとに、子育て支援拠点としての機能を更に拡充され、児童福祉の向上に一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴学院の益々の御発展を心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 中部少年学院創立70周年

下関市長 中尾友昭



中部少年学院が創立70周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

中部少年学院におかれましては、小野倉蔵夫妻が戦後の混乱期に戦災孤児の保護活動を端緒として昭和21年8月に学院を設立されて以来、「児童にとって最善の利益をなによりも優先する」という理念のもと、永年にわたり児童福祉、社会福祉をはじめ、地域社会の福祉の向上に大きく貢献されてこられました。これも、小野夫妻をはじめ、そのご遺志を受け継ぐ歴代の関係の皆様のご尽力の賜と、深く敬意を表します。

さて、昨今のスマートフォン・SNS等のIT技術の発展に伴い、子育て環境は複雑化し、親世代の子ども時代には考えられなかった問題が日常的に発生するなど、保護者並びに職員の皆様におかれましては、日々

ご苦労の絶えないことと存じます。

そうした中、本市におきましては、次代を担う子どもたちが、元気で伸びのび育ち、「ふるさと下関」に誇りを持ち続けるよう、家庭児童相談室の環境整備や児童福祉施設の充実をはじめ、良好な子育て環境の整備に職員一丸となって取り組んでおります。皆様におかれましては、本市児童福祉環境の向上へ、引き続きご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びにあたり、中部少年学院がこれからも永く、多くの子どもたち、保護者の心よりどころでありますよう、また、皆様のますますのご健勝ご多幸を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。



# 祝辞

中部少年学院後援会 会長

友田有



中部少年学院後援会の皆様には、平成29年の輝かしい新年を希望に満ちてお迎えの事と拝察しお慶び申し上げます。

この度、なかべ学院広報誌「そよかぜ」を中部少年学院創立70周年記念号として発刊されるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

私が前任会長の山口芳英氏の後を引き継ぎ、早や4年の歳月が経過致し、この間、本会にご加入いただいております法人、個人の会員の皆様には平素格別なるご協力を頂き、また微増ながら会員の増加を頂き、活動事業も順調に推移して参りました事につきまして深く感謝の意を表する次第であります。

ご高承のように「なかべ学院」は昭和21年「福祉の慈父」と慕われ、敬われた故小野倉蔵先生が中部少年学院を創設されて70年を経て、こ

の間、学院は昭和61年の児童養護施設の改築を行い、更に平成24年新院舎の新築落成を見て素晴らしき環境に生まれ変わり、誠に同慶にたえません。

私達は故小野倉蔵先生が戦後の混乱極みなぎ時に、やむなく親と離別した多くの子どもを引き取られ、育み成長させ、社会に巣立たされた崇高なるこの偉業に生涯を捧げられ、この神仏が如きご遺徳を後世に引き継ぐ責任があります。

私の政治信条に貫して「社会福祉の向上」を掲げて活動して参りました。これは偏に故小野倉蔵先生から、在世中、児童福祉の重要性について深い御薫陶を頂いた賜と肝に銘じ、学院事業の発展並びに政治活動に資して参りたいと存じます。

「なかべ学院」創立70周年と「そよかぜ」70周年記念号発刊を祝し、併せて会員各位の益々のご繁栄ご多祥を祈念致します。

# 社会福祉法人 中部少年学院沿革

創設者 小野 倉藏

明治四十年(一九〇八年)二月二十四日、群馬県北群馬郡子持村にて出生。昭和二年群馬県自治講習所卒業後、村役場書記、東京婦人毎日新聞記者を経て、昭和十三年大陸への物資運送業務に携わる。終戦後、下関に居住し下関駅周辺にたむろしている戦災孤児や浮浪児の様子を見かねた倉藏・鳥子夫妻がその子らを自宅に連れ帰り、共に生活を始めたことから児童福祉にその生涯を捧げるようになった。

昭和

21年 8月20日 司法少年保護団体としての財団法人中部少年学院の設置認可

12月24日 初代理事長 小野倉藏・初代院長 柴田昇 就任

22年 4月30日 小野倉藏下関市議会議員当選(以後通算七期)

11月30日 第二代理院長 小野倉藏 就任(理事長兼務)

12月3日 昭和天皇本市行幸に際し、大和町二冷屋上にて言葉を賜る

23年 4月1日 児童福祉法の施行に伴い 養護施設として認可(定員八十名)

12月11日 木造瓦葺平屋建 児童寮完成

26年 4月1日 乳児預り所(定員九名)開設 初代院長 小野鳥子 就任

27年 5月17日 社会福祉事業法の施行により 財団法人を社会福祉法人に組織変更

(養護施設 定員四十五名・乳児預り所 定員九名)

28年 4月1日 乳児預り所を乳児院(定員十五名)に変更

31年 4月1日 乳児院 定員二十名に増員

6月1日 養護施設 定員八十名に増員

33年 3月10日 江の浦小学校角倉分校拡張のため 現在地への移転工事完成

7月12日 入所児童の職業指導のため 自動車運送事業の実施(五十八年廃止)

42年 3月31日 乳児院 鉄筋コンクリート造三階建 完成 (定員三十五名に増員)

4月1日 宇部乳児院と合併する

43年 3月31日 養護施設 鉄筋コンクリート造一階建 完成

44年 3月31日 養護施設 幼児寮 完成

11月1日 養護施設 定員九十名に増員 乳児院 定員四十名に増員

45年 4月11日 学院創立二十五周年記念式典を挙げる

12月1日 乳児院 定員四十八名に増員

49年 6月30日 養護施設 鉄筋コンクリート造三階建 女子寮完成

51年 3月30日 乳児院 鉄筋コンクリート造三階建増築完成

7月20日 学院創立三十周年記念式典を挙げる



卓球を楽しむ院生たち (昭和23年頃)



昭和天皇のお言葉を賜る感謝の日 (昭和22年12月3日)



細江町一帯の焼け野原(右上山陽ホテル) (昭和20年頃)



小野倉藏・鳥子夫妻(米寿の祝賀会にて)

## オペラユニット「LEGEND」のみなさんとの交流

2006年、オペラやコンサートで活躍する国立音楽大学出身の5人の男性オペラ歌手が「一夜限りの伝説のコンサートをやるうー」と「LEGEND(レジェンド)」を結成。

その二夜限りのはずのコンサートが「クラシックコンサートの常識を覆すステージだった」とクチコミで広まり、2007年から本格的に活動を開始。

2016年5月結成十周年を記念したコンサートを開催。

なかへ学院初来院は、児童養護施設建設支援コンサート(2010.9.24)の前日。



それ以後も毎年のように来院。

ミニコンサートで素敵な歌を聴かせていただいたり、勉強をみてもうったり、一緒に遊んでもうったりと子ども達を励ましてもらっています。



- 53年 4月29日 小野倉藏 勲四等瑞宝章を授与される
- 58年 4月 小野倉藏 全国養護施設協議会 会長に就任(以後六期)
- 60年 3月30日 養護施設鉄筋コンクリート造 階建 幼児寮完成
- 61年 10月12日 学院創立四十周年記念式典を挙げる
- 62年 4月10日 小野倉藏 第二十二回吉川英治文化賞を受賞する
- 平成
- 4年 4月29日 小野倉藏 勲四等旭日小綬章を授与される
- 6年 4月1日 乳児院 第一二代院長 小野明 就任
- 12月1日 中部少年学院後援会 発足 初代会長 古賀敬章 就任
- 12月15日 乳児院 第二二代院長 小野眞子 再任
- 8年 4月1日 乳児院 第四代院長 古谷誠 就任
- 11月10日 学院創立五十周年記念式典を挙げる
- 9年 8月1日 小野倉藏 退任
- 第二代理事長 小野俊平・養護施設 第三二代院長 古谷誠・乳児院 第五代院長 馬淵春枝 就任
- 10年 4月1日 児童福祉法の改正により 養護施設が児童養護施設に名称変更される
- 14年 4月1日 児童養護施設・乳児院ともに 施設名を「中部少年学院」から「なかべ学院」に改称
- 15年 4月1日 児童養護施設 第四代院長 馬淵春枝・乳児院 第六代院長 秋枝研一 就任
- 17年 3月26日 第三代理事長 馬淵春枝 就任(児童養護施設院長兼務)
- 10月1日 乳児院になかべこども家庭支援センター「紙風船」併設
- 18年 4月1日 児童養護施設 第五代院長 咲賀信幸 就任
- 11月12日 学院創立六十周年記念式典を挙げる
- 19年 10月12日 入所児童の人權擁護のため「すまいる宣言」を制定する
- 20年 2月18日 なかべ学院に安全委員会を設置
- 4月26日 後援会 第一代会長 山口芳英 就任
- 7月20日 第四代理事長 石川啓 就任
- 24年 3月24日 児童養護施設なかべ学院 新院舎完成(定員八十名)
- 25年 6月14日 後援会 第三代会長 友田有 就任
- 26年 4月1日 障害児通所支援事業所「そよ風」開設
- 初代所長 福川博宣 就任
- 27年 4月1日 下関市の委託を受け、養育支援訪問事業を開始
- 29年 2月19日 学院創立七十周年記念式典



児童養護施設新院舎 (平成24年3月)



60周年記念の人文字 (平成18年11月)



学院全景 (平成15年頃)

# 「ありがとう」という言葉

オペラユニット レジエンド 吉田 知明

中部少年学院が創立70周年を迎えられるにあたり、心からお喜び申し上げます。私たち、オペラユニット レジエンドは、ここ下関の地で何度かコンサートを行う機会があり、その縁もあって六年ほど前からなかべ学院を度々訪問させていただいています。学院内でコンサートを行ったり、子ども達と遊んだり、一緒にご飯を食べたり、時には勉強を見たり…。子ども達は礼儀正しく、好奇心旺盛で、元気杯。そして優しい心を持っている子たちばかりで、いつも本当に楽しく交流させていただき、帰りはいつも後ろ髪を引かれる思いです。

何度目かの訪問の時、石川理事長からいただいた挨拶の中に「ありがとうという言葉を知っていて良かった。ありがとうという言葉の意味を知っていて良かった。ありがとうはあなたへ贈る言葉。ありがとう、ありがとう」と言うワンフレーズがありました。その言葉にハッと心が震え、目が熱くなったのを覚えています。それまで私は「ありがとう」と言う言葉の意味など深く考えたことはありませんでした。石川理事長をはじめ、中部少年学院の先生方の心通う指導があつて、子ども達のとびきりの優しい心が育まれているのだなと感じ入りました。

一緒に遊んでくれてありがとう。歌を歌ってくれてありがとう。沢山の「ありがとう」を贈ってくれたなかべ学院の子ども達に、私たちからも心から「ありがとう」と言う言葉を贈りたいと思います。

『出会ってくれてありがとう。』

微力ではありますが、私たちは音楽の力で子ども達を、中部少年学院を応援していけたらと思います。これからも子ども達が見える生活を送れるように、そして関係者皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



# お祝い

卒院生 仲岡桜輝

70周年おめでとうございます。ふとした時に顔でも見せに帰ろうか、といつまでも在ってほしい場所です。ますますのご発展をお祈り申し上げます。

# 宝物

卒院生 橋本聖也

私は小学5年生の時、なかべ学院に入りました。私の家では毎日ご飯を食べることすらままならなかったのも、たくさんおかわり出来て、しかも美味しいご飯を食べさせて貰える事にとっても幸せを感じました。

また時に厳しく、時に優しく見守ってくれた先生達は、自分にとって第二の親のような存在でした。

周りを見渡せば素晴らしい先輩ばかりで、私にはそんな先輩たちの背中があり、またサポートしてくれる先生達が居たからこそ、今の自分があるのだと思います。

また卒院してからも、我が子が帰って来たかのように私を受け入れてくれるなかべ学院は、私の「宝物」です。

最後に、創立70周年おめでとうございませう。なかべ学院の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



さつき祭(5月)



盆踊り(8月)



運動会(10月)



クリスマス会(12月)

# 中部少年学院への想い

旧職員 尾ノ上千津子

中部少年学院 創立70周年まことにおめでとうございませう。

小野倉藏院長の開設されました施設が、戦後と云うこの国の歴史と共に、今年度、記念すべき70周年を迎えられました事に対し、齢七十を歩き始めました私にとりましても、感慨深いものがあります。

貴院「乳児部」に携わらせて頂いておりましたのは、数十年も前となり、看護の道から児童福祉の世界へ飛び込み、子どもたちとの日々は、喜怒哀楽の積み重ねでありました。

時は移り、建物は勿論、職員の方々の顔ぶれもかわられて、唯、子どもたちへの愛育の精神には変わりの無いことを信じております。いまだに、風の便りで学院のニュースを耳にしては、喜憂している自身のいる事が不思議です。保育施設に対する子どもたちの声や様々な苦情等が世間を賑わせておりますが、学院の子どもたちには、諸先生方の強い擁護の下で日々の生活が守られます事を心より願っております。

中部少年学院の益々のご発展を心より祈念いたしております。

# ふつうになりたい

旧職員 磯谷円美

70周年おめでとうございませう。学院に通って二十年、おそらく主人よりも長い時間を子どもたちと過ごしていたように思います。「奥さんは単身赴任中と思ってるよ。」という愛の言葉に支えられ、思う存分やり

たいようにさせて頂きました。子どもたちと一緒にはしゃいだり、泣いたり、怒ったり...そんな中で、子どもへの何気ない一言が沢山心に残っています。

「普通になりたい」

赤ちゃんから学院で育ってきた子どもたちの言葉。親のことは想いはありつつも、子どもたちはぐっとこらえています。友達と同じような当たり前の日常の中で生きたい。この言葉が私の中で子どもたちを育てていく道しるべになりました。

「家庭に近い環境で」と言われる中で、ハード面では建て替えてかなり近づいてはきましたが、子どもたちが一番求めている「普通の生活」というものにはなかなか近づけません。

「今日は何食べる？」と話しながらの買い物、幼稚園や学校での出来事を聞いてくれる大人のいる風景。家庭では普通にある光景です。「施設なんだから仕方ない。」と言われればそうなんです、少しでもその思いに近づきたい、永遠のテーマです。

縁あって、退職後も児童福祉にたずさわることになり、この「普通」とはなんぞやと自問自答の毎日です。子どもたちが何十年か後に「ああ、私って結構普通に育ってきたんやなあ」と思ってくれますように！これまでの、そしてこれからの子どもたちに幸あれ！

# おかえり

旧職員 東海林拓也

創立70周年おめでとうございませう。

私は、今から10年前の平成19年になかべ学院へ就職し、6年間、保育士

として学院の子ども達と生活をともにさせて頂きました。

当時は、幼児寮があり幼児期の子ども達からは「たくやばば♡」と親しみを込めて呼んでもらっていました。正に父親代わりとして女性保育士には負けないように体を使ってたくさん遊び、だっこやおんぶなどスキンシップを意識しながら保育をさせて頂く中で、自然に子ども達を大好きになり、いとおしく愛するようになりました。

三食をともに食べ、お風呂に一緒に入り、一緒に眠る。24時間交代をしながら、親代わりとして子ども達の生活を支える児童養護の仕事は、本当にやりがいがあり、子ども達と過ごした一つ一つの想ひ出が私にとって宝物になっています。思春期の子ども達、特に男子とは何度も話し合い、時には思いをぶつけ合い関係を深める中で、保育の原点はまず愛することだということを経験を通して知ることができました。

勤続6年目の春に故郷秋田の祖母が大病を患い約半年間介護休業を頂いた時、職員の方々と子ども達より、笑顔で「いつてらっしゃい」そして「おかえり」と言ってもらった言葉で、私も愛してもらっていたことを知り、私も愛してもらったことを知りました。学院を離れて4年になりますが、いつでも私が学院を訪れると「おかえり」と言葉をかけてもらえます。その度にここは私にとって下関の帰る家なんだと幸せに感じます。今後子ども達にとつて帰る家として、のなかバ学院であつて欲しいと願っています。



- 時安翔太郎
- 尾山由佳
- 稲尾業月
- 柿本涼子
- 石井裕子
- 家人朱音
- 前田千晶
- 河原里依
- 大田紗耶加
- 内山尚子
- 脇田千亜希
- 大久保咲子
- 三輪龍二
- 石川 祐
- 植田詩織
- 秋坂研二
- 竹川 智子
- 大下美小代
- 河村実紗
- 別所陽子
- 山口瑞穂
- 田上千代
- 尾崎仁美
- 野田侑希
- 重松初代香
- 岡村貴代
- 本繁麻由子
- 坂本佳代子
- 三澤 篤
- 高橋菜子
- 山口和恵
- 三好謙一
- 西 幸枝
- 新沼奈々
- 植野理恵
- 安本千晶
- 濱村美貴
- 小田奈明
- 西川智世
- 阿川夕子
- 庄司幸生
- 高杉久美子
- 大野洋介
- 木村千佳子
- 岡森留佳
- 藤田巳代子
- 小林亜弥
- 古谷翔
- 渡邊あすか
- 北村保寛
- 守田 拓里
- 江口弘美
- 鶴濱敏子
- 前田朋子
- 戸高翔太
- 川崎さつき
- 河野淳美
- 酒井様子
- 原田晴生
- 福川真由美
- 西村ひとみ
- 咲賀信幸
- 有田美幸
- 福川博宣
- 山田佳代子
- 海田直子
- 中島正規
- 河田隆子
- 平田悦子
- 村田千帆
- 藤本 純子
- 末山真理恵
- 井上悠介
- 福富美奈子
- 竹下朋子
- 畑村泰至
- 水津隆光
- 西村紗央里
- 隅田久美子
- 大野洋介
- 隅田久美子
- 西村紗央里
- 水津隆光
- 藤田巳代子
- 小林亜弥
- 古谷翔
- 渡邊あすか
- 北村保寛
- 守田 拓里
- 江口弘美
- 鶴濱敏子
- 前田朋子
- 戸高翔太
- 川崎さつき
- 河野淳美
- 酒井様子

# 児童養護施設 なかべ学院の今

平成23年度に現在の院舎建築を行ない、平成24年4月から定員を80名として、二階を未就園の幼児中心の一ホーム、二階を男子の二ホーム、三階に女子の二ホームの計五ホームで従来の大舎の養育体制から二ホーム15〜16人での生活を始めました。(今年度は女兒が多く二階も女子ホームとしました)

そんな新院舎での生活が始まってまもなく、子ども・子育て支援新制度が施行され、児童家庭福祉が大きな転換期を迎えています。平成27年を初年度として15年をかけて施設の小規模化と地域分散化への取組みを図るよう求められています。

なかべ学院としては、各ホームの定員を半減させる生活単位としていくこと、地域でのグループホームの開設がこの先必要となってきました。平成30年度の乳児院の建て替え後に本格的に取り掛かる予定ですが、70周年を迎えた現在の五ホームの様子を紹介いたします。

## ホーム便り

**花ホーム** 花ホームでは十月のハロウィンパーティで高校生のお姉ちゃんがかつま芋クッキーを手作りしてくれました。いろいろな形がある手作り感満載！そんな高校生も就職が決まり安心。今は自動車学校に通い免許取得に向けてまっしぐら。



学院クリスマス会ではホーム演目の劇「ブレイメンの音楽隊」の役になりきり熱演。また合奏では得意な楽器を手にみんなが力を合わせて演奏できました。練習ではなかなかうまく出来ずいじけることもしばしば…でも本番に強い！未就園児の日舞も職員の心配をよそにとても可愛らしく踊ることが出来ました。さすがダンス好きな女子たち。今、流行りの「恋ダンス」の曲がテレビやDVDで流れると皆がテレビの前に集まりキレキレ☆

のダンス大会が始まります。年度初めはお互いが遠慮していた子ども達。時には些細な喧嘩もありますがコタツを囲みテレビを見たり、玩具で遊んだり和やかな雰囲気も感じる様になりました。

**鳥ホーム** 鳥ホームはソファが2つあります。2つとも壊れているので、今回新しく購入することにしました。小学生と一緒に家具屋さんに行き見てきました。12人の子どもが座れるソファなんてあるわけもなく、そして予算も決まっています。

家具屋さんでは予算オーバー…リサイクルショップに行ってみました。そこで2つほどお気に入りを見つけたが予算オーバー。携帯電話で写真を撮って帰り、お留守番をしていたお兄ちゃんたちにも見せ、一緒に悩んだ末、1つだけ購入することにしました。家具屋さんに行くことは今までなく、ホーム制になっ



たからこそ実現できました。そして、ソファが届く日。楽しみにしてくれている様子。届いたソファを見て「すごい!!」「でっかい」等喜んでくれました。皆で悩んで購入したソファ。大切に使うと思います。

2年前に卒院したお兄ちゃんが成人式でした。年末から帰ってきてくれ元気そうな顔を見せてくれました。祝!!成人式!!

**海ホーム** 「寒い冬が来る。今年は雪降るかな」と待っていますが、いつもより寒い冬はまだ来ずに、遊べる時には外で野球やサッカー、鬼ごっこなど元気よく遊んでいます。高校受験を控えた2人も頑張っています!

冬と言えばクリスマス会!海ホームは毎年、お客様に衝撃を与える笑劇に挑戦しています!



今年はおバクトウザーチャーをテーマとして、過去の色々な出来事を演じました。幼児の可愛らしい演技や、小学生と中学生のかっこいい演技だけでなく、重要となる笑ってもらえる劇に挑みました！

練習の成果もあり、もちろん今年も大成功！最後の役紹介の時にはいつも達成感を感じさせてもらえます。小さな子から大きな子までが、協力して一つの事を成し遂げる事はとても素晴らしいです！そして、海ホームの子ども達も笑顔で成長できるように願っています！

お正月には、初詣や餅つきやお年玉での買い物などもしました。寒くなっても体調に気をつけ、風邪をひかないように強く逞しい男の子に育っていきます！

**風ホーム** 時が過ぎるのは早いものでもう2月ですね。1年はあつと言いますが、4月に比べて子ども達の成長はとても目に見えます。

風ホームの女の子はお手伝いが大好き！特に人気のお手伝いは毎日の食事の配膳とお風呂掃除です。やりたい子が多すぎて喧嘩になる事も…。お風呂掃除中、服はびしょ

ぬれ、洗剤は出し過ぎて泡まみれ。職員は頭に角が生えそうになりながら子ども達を見てみると「生懸命な姿を見て、「怒らない怒らない…優しく言おう」と考えさせられます。



高校3年生の女の子は進路に向けての活動を頑張り、決まりました。卒院まであと少し。これからの不安を口に出す事もありますが、自信を持って頑張つて行つて欲しいと思います。

写真は学院のクリスマス会の様子です。ホーム児童、職員が全員でダンスを踊りました。毎日喧嘩や言い合いが絶えませんが、ホーム全体で一つの事ができた時の感動は忘れられない思い出となりました。

**月ホーム** 季節が変わるのは早いもので、気が付いたらもう新年を迎えています。「私の干支とはなあ

に？」はともかく、「何月生まれが四年なん？」と予想外の質問に吹き出してしまいました。やはり子どもたちは、大人と見えている世界が違つのでしょつ。

小学生は、秋にはお出かけしました。門司ではジェルキャンドル作成！それぞれのセンスが光つた作品となりました。ハーモニーランドにも出かけ、キティちゃんに大興奮！そして、ショーでは感動のあまり涙する子も…

そして、迎えた冬本番。クリスマス会では「今昔歌合戦」の名のもと、昭和と平成の名曲を踊りました。可愛いだけじゃなく、カッコよさや魅惑のダンスまであり、衝撃ならぬ笑撃を与えることができたのではないでしょつか？中学生も自分たちで練習してダンスに臨み、真剣な良い表情を見る事が出来ました。残りの3か月も泣いて笑つて怒られて？子どもたちの色々な表情を見たいと思います。



## 2017 年男の誓い



本年も、健康に気を付けて、素晴らしい一年となるよう頑張ります。

看護師 桶本涼子

笑顔で楽しく過ごせるように、今年も一年頑張ります。

保育士 藤本純子

今年も一年病気や怪我をすることなく、元気に過ごします。

保育士 西 幸恵

嫌いな教科(算数、理科、社会)を適当にしない。

小5 美咲

私は今年問題を起こさず先生たちに心配をかけないようにします。

小5 美鈴

暴力をぜつたいにしないで口で言うことを守ることをがんばります。

小5 勇樹

## 乳児院便り

### 新院舎建築に向けて

乳児院長 秋枝 研二

「タツタツタツ、トットトット」と廊下を小走りする職員の声。「あの子が待っている…」と常に気持ちは子どもたちに…。30名余の乳幼児をお預かりしている我が家の日常風景です。ミルクを飲ませオムツを替え、おフロに入れて泣く子をあやし、争いやケガの無いように遊ばせ、障害のある子や病気の子を気づかないながら日誌を書く、本当に目まぐるしく一日が過ぎていきます。「も



つと人手があつたらな」と乳児院職員は誰もが思っています。

乳児院の現院舎は昭和42年に建てられ、昭和51年に増築されました。かなりの年数が経っているので、あちこち傷んでいます。

耐震化もしていません。傾斜地に立つ3階建てで結構広く、したがって冒頭の小走り状態となります。

「新院舎が欲しいね。」という職員の共通の願いが理事会で承認され、平成30年度に定員を30名に減員し、移転新築する予定となりました。ちょうどこの時期、子どもの権利を重視した児童福祉法の改正がなされ、児童入所施設はその姿を大きく変えざるをえなくなりました。改正法で、社会的養護を要する児童がいた場合まずは在宅の可能性を、次に里親やファミリーホームを、止むを得ない場合に施設入所をとるというように優先順位がはっきりと示されました。そして、施設は養育単位を縮小し、家庭的な養育環境を整えるようにとの指導がなされています。新院舎はこの方針を受け、木造平屋建てで、生活区域を3ユニットに分散し、1ユニットを2グループで構成します。児童の編成もこれまでの月令に応じた横割りから、原則として縦割りになります。地域の子育て支援を任務とする児童家庭支援センターをこれまで通り併設し、地域の方々が気軽に利用できる地域交流ホーム

も建設します。地域との関わりはもっとも大切にしたいことの二つです。

「このままいくとそのうち施設はなくなるのでは」という危惧をもつ方もありますが、私はそうはならないと思います。おそらく施設でなければ対応できないケースは存在し続けるでしょう。施設の強みはプロの職員集団がいることです。その集団が力量を磨き、一つの選択肢を提供することは、利用者にとって好ましいことだと思えます。増え続ける児童虐待やDV、何かのストレスのはけ口が力の弱い者に向かうという現象がなくならない限り、地域の子育て支援や里親支援を含めて、施設の果たすべき役割はむしろ増大するように思えてなりません。

このようなことを考えながら時代の要請に対応できる新院舎の建設に取り組んでまいりたいと思います。全てが大きく変わろうとしています。期待と不安とが入り混じった気持ちですが、これからは変わらぬご支援、ご協力を賜われますようよろしくお願いいたします。

## 紙風船便り

### 紙風船の紹介

相談支援員 井上 悠介

なかべこども家庭支援センター「紙風船」は、平成17年10月に開設され、現在12年目を迎えています。地域の子育て支援を主な業務とし、電話相談、来所相談、家庭訪問、心理療法等を実施しています。また、地域の小学生を対象としたグループ活動、デイキャンプ、ピクニック、夏休みには講師を招いて工作教室を実施しています。相談支援員2名、心理療法士2名(非常勤)市



より委託を受けた養育支援訪問事業に携わる訪問支援員2名(常勤1名、非常勤1名)の専属スタッフですが、チームワークを大切に頑張っています。

児童虐待防止月間である11月には、児童虐待防止の啓発活動として、多くの団体のご協力をいただいで、オレンジリボンたすきリレーを実施したり、スーパードア下関海響マラソンで啓発チラシや風船の配布を実施しています。

ご相談いただく主な内容は、児童虐待、不登校、非行等に関する相談です。毎年深刻な内容も増えており、対応が困難になってきているのが現状です。児童相談所や市から紹介を受けるケースも多く、関係機関と連携を取りながら、子ども最善の利益を考えることが、保護者の支援につながる事を信じて活動していきたいと思えます。

市からの委託を受け始まった養育支援訪問事業もこれからの紙風船の大きな柱となるでしょう。より一層地域へ根ざした、気軽に声をかけていただける児童家庭支援センターを目指して、これからも精進していきたいと思えます。

## そよ風便り

そよ風を振り返って

所長 福川 博宣

中部少年学院に障害児通所支援事業所そよ風が開設されたのは、平成二十六年三月二十五日、今から三年前でした。広報誌「そよかせ」第33号に七人の職員が不安と緊張の面持ちで立っている様子が写真に掲載されています。



開設当初の思い出を振り返ってみたいと思えます。

七人の職員は障害児についての経験も知識もまちまちでした。五月の会議を思い出すと、まったくゼロからのスタートでした。ごく初歩的な療育についての共通理解も出来ず、明日から来る子どもに何をして行けば良いのかを手探りで考えるだけで精一杯の毎日でした。目の前の療育環境

をどのようにするか、一日の生活スケジュールをどのように組み立てるか、毎日の送迎計画をどのようにするか、午前と午後の児童の対応をどのようにするか。仕事は枚挙にいとまなく、意見は喧々諤々で何度も会議を重ねました。

それでも、職員の障害児に対する研修に加え、他の事業所への見学、関係機関からのアドバイスもあり、次第にそよ風の療育が体裁を整えて来たのは二年目に入った頃でした。

個別支援計画を基に、利用者一人の特徴を把握し、どのように支援するかを、実践に移していくことが出来つつありました。一日のスケジュールを写真で提示し、トイレ指導、設定保育、遊びや製作、食事やおやつ時間など、多様な療育の時間を工夫出来るようになりました。また、児童の送迎においても、公用車が当初は一台であったのが、二台になり、広範囲に及び利用者のニーズに対応できるようにになりました。さらに、ボールプールや椅子子絵本等の教材教具の寄贈もあり児童の活動もより一層内容の濃い物となり感謝の気持ちで一杯になりました。



開設三年目は利用者の希望を受けて定数十名としました。療育内容も児童発達支援の児

童には、従来の活動に加え、買い物学習・児童館ひこまるやふくふくこども館などの所外活動も加えていきました。放課後等デイサービスの児童は、食器洗い・掃除機かけ・箱折りなどの生活体験的な内容に加えて、風船バレー、ボーリングなど余暇活動も加え、集団で遊べる力も育んでいくようにしました。

三年間の取り組みは思考錯誤の連続でしたが、児童にとっては楽しい場・保護者にとっては安心して利用できる場となるようにこれからも職員が力を合わせて努力したいと誓つ次第です。



中部少年学院創立70周年記念  
**LEGEND**  
 チャリティーコンサート



日本初の男性オペラ歌手5人組の『オペラユニットLEGEND』は、中部少年学院の創立理念に賛同し、音楽や芸術を通して子ども達に愛と夢を届けるため、2010年より支援活動を行ってきました。このたび中部少年学院の創立70周年を記念して、チャリティーコンサートを開催することになりました。『オペラユニットLEGEND』の「重厚なハーモニー」と、笑いやスピードのある「躍動感あふれるステージ」をどうかお楽しみください。

2017 **2/20** 月 **ドリームシップ(下関市生涯学習プラザ) 海のホール**  
 開場:18:00 開演:18:30 全席指定:¥5,000(幼児入場不可)

**編集後記**

♪ありがとう♪  
 広報「そよかせ」の中部少年学院創立70周年記念号発行にあたり、急な原稿依頼にも関わらず、快くご寄稿頂きました皆様、誠にありがとうございました。

この70年の間、社会は大きく変容しましたが、その時々々の社会の要請に出来るべくあゆみを当法人がして来られたのも、後援会をはじめ、地域の皆様、関係各位の皆様のご指導ご支援の賜物と、改めて感じ入り心より感謝申し上げます。

次の時代に向けて、子どもを慈しみ育み、笑顔を守るあゆみが続けていく中部少年学院に、これからも変わらぬご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。編集後記と致します。ありがとうございます。

児童養護施設なかへ学院  
 院長 咲賀信幸

後援会加入のお願い  
 後援会事務局

法人年会費	10万円
個人年会費	10千円

何口加入されてもかまいません。  
 お問い合わせはなかへ学院まで  
 TEL 083-266-1934

- 四大大行事予定**  
 (平成29年度)
- 5月13日(土) さつき祭
  - 8月17日(木) 盆踊り
  - 10月9日(月・祝) 運動会
  - 12月16日(土) クリスマス会